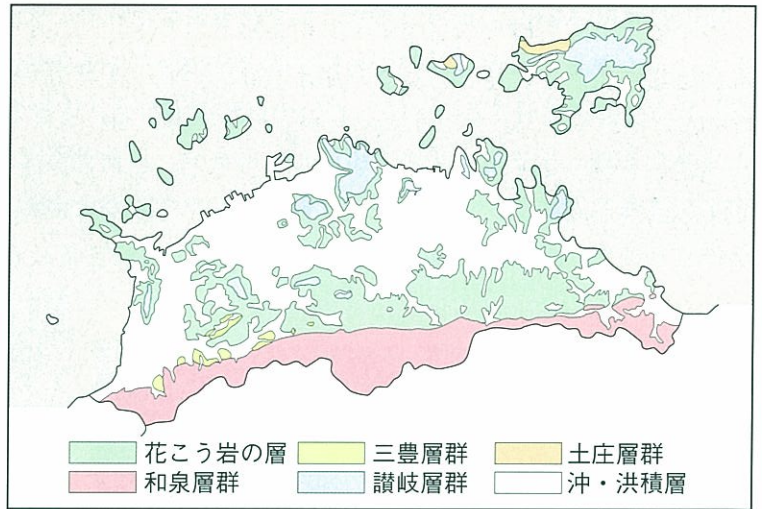


4 香川の地質

讃岐山脈は今から約7,000万年前の太平洋の海底に堆積した泥や砂が隆起してできた和泉層群からできています。また、丘陵地には三豊層群、平野部の山塊には讃岐層群、小豆島には土庄層群といったそれぞれ時代の違う地層が見られます。これらの地層からは、過去の香川の環境を知る手がかりとなる生物の化石が産出します。



香川の地層

1 香川の地層と見られる化石 花こう岩の層

中生代の白亜紀中期（約1億年前）に、香川県の地下深くでマグマがゆっくりと冷えて固まり花こう岩ができました。この花こう岩の層が香川県の土台となっています。

和泉層群

中生代の白亜紀後期（約7,500万年前）に、讃岐山脈が海底だったころにできた層です。この地層からは下のよな海の生物の化石が見られます。



オウムガイ（さぬき市多和）

イノセラムス（東かがわ市五名）

コダイアマモ（財田町）

サンドパイプ（塩江町）

土庄層群

新生代第3紀（約1,700万年前）にできた層です。小豆島と豊島の一部に見られ、右のような浅い海の生物や湖で生活していた淡水の生物などの化石が見られます。



サメの歯（土庄町）

植物の葉（クスノキ）（土庄町豊島）

讃岐層群

新生代第3紀（約1,000万年前）に、火山活動がさかんであった時代にできた層です。県内の平野部に見られる山々（五色台、屋島、飯野山など）は、この層でできています。火山灰の層からは、右のような植物の化石が見られます。



桂化木（カツラの幹）（庵治町）

植物の葉（高松市鬼無町）

三豊層群

新生代第4紀（約200万年前）に、湖や沼が多くできていた時代の層です。県内の平野部と讃岐山脈との境目に見られます。時代が新しいので、比較的やわらかい層です。この層からは、湖などに堆積したモミなどの木の化石が多く見られます。



材化石（木の幹）（香南町）



トガサワラの球果（香南町）

瀬戸内海の海底

今から40万年～2万年前には瀬戸内海は海水がなく陸続きでした。この当時生活していたナウマンゾウの化石などが、現在、瀬戸内海で底引き網漁をしていると網にかかることがあります。



ナウマンゾウの臼歯（三ツ子島沖）



ナウマンゾウの大腿骨（小槌島沖）

2 香川の化石発見に貢献した人たち

生きた化石メタセコイア

木田郡三木町出身の三木茂（みきしげる）博士は、和歌山県や岐阜県でとれる植物化石を研究している中で、新しい種類の植物化石メタセコイア発見し、1941年に世界で認められました。そして4年後の1945年、偶然、中国の揚子江（長江）の上流でメタセコイアの現生種が発見され、化石は生きていたという世界的なニュースになりました。三木博士の観察力、洞察力の鋭さ、着眼点のすばらしさが世界の学者を驚かせたのでした。

アメリカで育てられたメタセコイアの苗木が広く植えられ、現在、小中学校などですくすくと育ち、立派な大木となっています。



メタセコイアの化石（葉の部分）（財田町）

世界最古のナマズ化石

森繁（もりしげる）先生は、小学校教師として働きながら、大学時代からのテーマである化石の研究を続けました。特に讃岐層群の植物化石を研究したところ、1985年さぬき市大川町柴谷^{しばたに}の約1,500万年前の層から、右の写真の化石を発見しました。この後、1995年に、この化石は世界最古のナマズの化石として認められました。

森先生の化石に対する情熱が世界的な発見につながったのでした。



ナマズの化石（全身）（さぬき市大川町）

調べてみよう

みなさんが暮らしている地域は、どの地層でできていますか。どんな化石がとれるのでしょうか。実際に露頭^{ろとう}を観察して、見つけた化石から過去の香川の姿を探ってみましょう。